

草の根技術協力事業（パートナー型）

ティカル国立公園への観光回廊における人材育成と組織化支援プロジェクト

2019年度本邦研修要項



2019年10月

国立大学法人金沢大学

人間社会研究域附属 国際文化資源学研究センター

（プロジェクトマネージャー：中村誠一）

目次

| | |
|-----------------------------|---|
| 1 研修概要..... | 1 |
| 1-1 研修の背景と目的..... | 1 |
| 1-2 日時・場所..... | 1 |
| 1-3 参加者..... | 1 |
| 1-4 目的と方法..... | 2 |
| 1-5 実施体制及び運営..... | 3 |
| 1-6 宿泊施設..... | 3 |
| 1-7 その他のプログラム..... | 4 |
| 1-8 評価方法..... | 4 |
| 2 研修内容..... | 5 |
| 2-1 金沢市について－概要および観光政策－..... | 5 |
| 2-2 エルサルバドルのパブリック考古学..... | 5 |
| 2-3 高山についての講義と視察..... | 5 |
| 2-4 白川郷についての講義と視察..... | 5 |
| 2-5 グループワーク..... | 5 |

1 研修概要

1-1 研修の背景と目的

『ティカル国立公園への観光回廊における人材育成と組織化支援プロジェクト』には、主に2つの目的がある。ティカル国立公園の周辺コミュニティの住民の生活の質を向上させ、世界遺産を活用することについて意識向上を行うこと、さらに活動を長期的に持続して行うため、住民が政府・自治体等の関連機関と連携した活動を行うことを目的としている。これらの目的のために、コミュニティの中で信頼関係を築くことのできるリーダー層の人材育成を行うこと、コミュニティの組織化と関連機関とのネットワーク形成を行うことが不可欠である。

今回研修を実施する石川県・岐阜県には、金沢城、兼六園、世界遺産の白川郷のように、自然・歴史・文化を観光に活用している例が多々見受けられる。本邦研修では、まちづくりにおいて地元の観光資源を適切に活用しているこれらの場所を視察する機会があり、関連講義にて、それぞれの分野の専門家により、視察を効果的に行うための教育を受ける。最後に得られた知識をそれぞれの所属先やコミュニティの現状に適応するため、共働で問題解決のためのグループワークが実施される。

1-2 日時・場所

○日時

2019年10月6日（日）～令和元年10月18日（金）（13日間）

※10月4日現地発、10月20日現地着

○場所

石川県金沢市・岐阜県高山市・岐阜県白川村

1-3 参加者

グアテマラからの参加者6名と、金沢大学の特別参加者としてホンジュラス国立人類学歴史学研究所(IHAH)1名が参加する。

1-4 目標と方法

| (1) コミュニティ/所属組織における現状問題の共有 | |
|--|--|
| <p>パワーポイントによる プレゼンテーション コミュニティ/所属組織に関する 報告</p> | <p>1. コミュニティまたは所属組織に関する発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティの代表である場合、地理、人口、教育、経済等の情報を加えること。 ・現在進行中の社会開発計画、プロジェクトについて ・現在の社会状況、直面している課題と問題点について ・研修に参加する組織(ティカル国立公園およびJICAを含む)と共働できると思われる側面について ・本邦研修へ期待していることについて <p>2. パワーポイントによるプレゼンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1に従い、10月8日にコミュニティ/所属組織に関する20分間のパワーポイントのプレゼンテーションを準備する。10月8日に発表を行う。プレゼンテーションでは視覚に訴える物、例えば写真や統計データ等が含まれることが望ましい。 |

| (2) 2019年度 本邦研修 | | |
|--|---|---------------------|
| 期待される成果 | 事例 | メソッド |
| 日本の文化遺産の保存と活用法、地域や自然との調和的発展の方策について学ぶ。 | 石川県金沢市、岐阜県高山市、白川村の世界遺産、文化遺産で周辺村落・地域の開発に結びついている事例と関係する施設 | 講義 視察 グループワーク |
| 文化は地域開発の資源であるという観点から、自国の実情にあった資源の管理運営法、地域住民の生活向上につながる活用法を提案することができる。 | アクションプラン 自国の実情にあった地域開発計画/所属機関の発展計画の提案 | 討論 グループワーク |

(3)事後活動

| | |
|---------------------------|---|
| アクションプランの共有 進捗状況報告書の提出 | 1. 関係者とのアクションプランの共有 2. アクションプラン進捗状況報告書の提出。 |
|---------------------------|---|

ア. 使用言語

スペイン語を使用する（スペイン語⇔日本語通訳を株式会社エルセクレタリーが行う）

イ. 講義及び実習

研修は、概ね午前2時間、午後3時間30分(午前9:30～11:30、午後13:00～16:30)とし、金沢大学を主たる実施場所として研修を行う。

ウ. 視察

諸理論及び学習した事例の理解を深めるため、講義やディスカッションで学習したことに関連する場所/施設を訪問する。

1-5 実施体制及び運営

本研修は、金沢大学が、JICA北陸/JICAグアテマラ事務所と協力し、実施する。研修の効果的運営のため、研修監理業務を行う研修監理員1名を配置する。

1-6 宿泊施設

- ・R & B ホテル金沢駅西口

住所:〒920-0031 石川県金沢市広岡 1-3-31

TEL: +81 076-224-8080 / FAX: 076-224-8082

- ・ホテルエコノ金沢駅前

住所:〒920-0852 石川県金沢市此花町 8-8

TEL:076-223-2600

・ カントリーホテル高山

住所: 〒506-0026 岐阜県高山市花里町6丁目38

TEL: +81 577-35-3900

1-7 その他のプログラム

(1) 研修担当者によるオリエンテーション

研修目標、内容などの基礎的な理解のため、プロジェクトマネージャー、JICA グアテマラにより、研修員に事前講義が行われる。滞在における注意点も説明される。

(2) 金沢大学学長への表敬訪問

(3) 開講式

(4) 閉講式

最終評価会の終了後に閉講式を開催し、研修を終了した各研修員に対し修了証書 (Certificate) を授与する。

1-8 評価方法

(1) 評価の目的

実施状況を明確に把握するとともに、研修の目標と成果を比較し、改善すべき点について検討する。

(2) 評価の方法

最終評価会（研修日程終了日）にて、研修員は研修効果、研修内容の自国での適用性等に関するアクションプランの発表を行う。

本評価会は、金沢大学および JICA 北陸の職員の前で開催され、金沢大学の大学院生も出席する。研修員の帰国後（原則として帰国後2週間）、各評価会での討議内容、JICA が規定するアンケートと研修監理員による報告書に応じ、金沢大学と JICA グアテマラによる反省会がペテンにて行われる。

2. 研修内容

2-1 金沢市について—概要および観光政策—

金沢市が、どのように文化資源—歴史、文化、遺跡—を活用し、地元の観光振興を行っているかその方法を学ぶため、金沢市についての講義と視察訪問が行われる。学習の効果を高めるため、2019年9月6日にグアテマラで事前講義に参加する必要がある。その後、日本では、金沢市観光政策課による観光政策と現状に関する講義を受講する。その後、金沢市内の各所を訪問することにより、講義にて取得した理論的知識を補完する。

2-2 エルサルバドルのパブリック考古学

村野正景氏による、エルサルバドルのパブリック考古学の現状 —コミュニティデザイン、伝統工芸、文化的景観、考古学の相互関係— について講義を受ける。グアテマラやホンジュラスに似た国で、これらの要素がどのように活用されているかを学ぶことを目的とする。

2-3 高山についての講義と視察

江戸時代から残る城下町を生かした景観で、国内外問わず観光客の多い高山市にて講義・視察を実施する。まちづくりや観光客の誘致方法について学ぶことを目的とする。

2-4 白川郷についての講義と視察

有形文化財・無形文化財をともに有する白川村を視察することで、それらの両方を活用した村づくりを学ぶ。事前講義では白川村の概要や文化遺産の保護や活用方法について講義を受ける。当日は伝統行事のどぶろく祭りが開催されているため、行政も含め村全体が一丸となっている様子を視察する。

2-5 グループワーク

高山・白川郷の研修旅行で学習したことについてふりかえり、共有するため、議論と発表をおこなう。